

# 道標

今治で生まれ、縁あって東北大で研究し、教壇に立つ現在までに、人生のさまざまな「道標」があった。その度、幼稚園から現在までに出会った先生・師匠から多くの示唆を頂いた。その教えがあったからこそ、今の自分がある。本当に先生・師匠に恵まれ、目をかけて頂いたことに感謝している。

小中高校までの在今治時代は、今治市立桜井小学校5・6年生の担任、故白石弘臣先生に人生の重要なアドバイスを頂いた。漢字の書き取り、グラウンドの水たまりや木造校舎の傷みの補修、自然の中で楽しむ方を習い、現在の日常・興味の基礎を教えていただいた。卒業後もことあるごとにお世話になった。特に大学進学時、共通一次の点数が目標まで届かず悩んでいた時、「行く大学は

## 師匠、そして感謝

他にもあるだろう。そこで頑張ればよいのだ」と諭してください、救われた。また、卒業文集に書いていただいた「あきらめるな!!何時間かかろうと、何日かかろうと、粘り強く、絶対にあきら

渡辺 正夫



東北大大学院  
生命科学研究所教授

研究室での立ち居振る舞いについて、「物言わず行動し、その背中を示すことの大切さ」を教わった。鳥山欽哉先生からは、実験はどのように考え、まとめ、アピールするかという研究の基本姿勢を学んだ。何より研究をして「論文発表するなら、世界一を目指すべきで、それが英科学誌ネイチャーへの論文掲載である」ということ、そのためには「研究の世界に休みはないのだ」と教えていただいた。2人の鳥山先生との出会いがあったからこそ、今の研究者・渡辺がある。

東北大農学部植物育種学研究室の教

# 教えは今の自分の礎

めるな」という言葉を励みに今日まで頑張ってきた。

大学時代は、当時、東北大農学部植物育種学研究室の助手であった2人の鳥山先生から、研究者の「いろは」を教えていただいた。鳥山伸一先生には、

授(当時)であった日向康吉先生こそが、人生における真の師匠であり、研究・人生両面で多くを教えていただいた。共同研究を重視した「餅は餅屋」的姿勢。科学をする上で不可欠な論理性、文章力、プレゼン力、英語力の

## ふるさと伝言

切さと鍛え方。教授職にある者の生き方を教えていただいた。何より、将来を見据えた研究の重要性を説いた「研究がすぐに役に立たなくてよいのだよ。50年後にあの仕事をしていたらよかったと評価されなくてはいけない」という言葉は、現在まで自分の全ての教育・研究の基礎となっている。

他にも、ここには書けなかった多くの先生・師匠からの温かい教えがあったから、今日の自分がある。さらに、よき同僚、後輩にも恵まれ、そうした方々に謝意を表したい。もちろん、本稿執筆に当たり、校閲などの労を頂いた研究室のスタッフにも感謝である。何より、1年間「道標」を読み続けていただいた読者の皆さまにも感謝したい。これら多くの方々への感謝とともに筆をおくが、最後は未来に向かって、この言葉を記す。宇宙戦艦ヤマト・初代艦長沖田十三の「明日のために今日の屈辱に耐えるんだ」。未来のために今日頑張るのだ。1年間ありがとうございました。(わたなべ・まさお、今治市生まれ)